

2020年度 高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性を育み、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに21世紀を生きる子どもたちが知的社会で必要とされる「複雑な問題に対する解決能力」「クリティカルシンキング」「創造性」などの人工知能にはできない人間味のあるスキルを身につけるための教育を推進する。そのために、授業の形態ではなく「今何をしなければいけないのか」「どういう行動をとるべきなのか」を考えて学ぶアクティブラーニングを推奨する。しかし、その根底として我が国の教育を支えてきた「座力の育成」を教育の「不易」なものとして捉え、アクティブラーニングと対局をなすパッシブラーニングに対しても否定するのではなく、「流行」に流されることなく「座学」を確立し時代の変化に対応できる生徒を育成する。

また、国際化が進む現代において、世界で活躍する人材の育成を念頭に「英語教育」「国際理解教育」を推進していく。特に、英語教育を進める上で「母国語」で物事を考えることの出来る力「国語力」が重要であると位置づけ、自国の言語、自国の文化に対する学習を強化・育成する。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の3本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成する。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
 - お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
 - 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒
- ※ 真の国際人は自国の文化に深い知識を持つとともに、自らのアイデンティティーを見失わない視点で教育活動を推進する。

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立」を目標としている。高校生には、保護者が獲得してほしい資質の1位である「学力・知力」は勿論のこと、上位に来ている「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「責任感」（高校保護者アンケート結果）を獲得することを教育の柱と据え、結果として4年制大学進学実績の向上（保護者アンケートによる希望が1位4年制私立大学文系、2位4年制私立大学理系）という重点目標達成を目指して目標を達成するための具体的な行動計画を立てる。

※ 外部評価機関の「授業評価、クラス経営評価、保護者からの評価アンケート」を実施・分析し数値を示して改善を図っていく。この数値は「プラス評価」－「マイナス評価」であらわされる「指数」となっている。

例えば、60指数は80%のプラス評価－20%のマイナス評価のことを指す。したがって「60指数以上」A、「59～20指数以上」B、「19～20指数以下」C、「20以下」Dと考えて評価・分析する。指数と書いていない数値については%の割合表記。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導を推進する。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣(座力)の確立」なくしてあり得ないという教育信念から昨年度に引き続き「気づく心の育成」「チャレンジ精神」「思考力の育成」に努め、自己管理能力(自制心)を高める。また、生徒を指導する教職員の資質を向上させるために機会あるごとに啓発を行って行く。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める「自己管理能力を育成」し時間を守ることの大切さを自覚させる。(自己管理)

イ、いじめを許さない学級、学年、学校「文化」を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指す。(他者理解)

ウ、社会人として巣立つにふさわしい「服装・マナー」の向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出す。(教養育成)

エ、SNSやメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションが図れるように指導する。(人権育成)

特に一人一台のタブレットを持たせているのでその正しい使い方を指導していく。

オ、教育裁判の事例を職員会議等で示して教職員の危機管理能力を高めるとともに「危機管理マニュアル」を作成し、啓発を行う。(危機管理)

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から教科学習、講習等様々な教育活動を通して時間の使い方を学ばせるため「学芸手帳」(バーチカルタイプ)の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習活動(クラブ活動も含む)を利用する習慣を定着させる。

※ 生徒は「iPad」または「Surface Go」を所持しているが、アナログの「学芸手帳」に書き込みことにより一層自分のスケジュールの管理や目標に向かっての進捗管理・やるべきことを確認する To Do List を意識しやすくしている。

この「自己管理能力」を高める中で保護者・生徒の願いである「自主自律の姿勢」「4年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板(70インチの黒板上を左右に移動できる液晶型)」「i-pad または Surface Go(一人一台)」「Wi-Fi 環境の整備」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」「駿台サテネット」「管理自習室の設置」「予備校出前授業」を利用した授業・講習を通して自学自習を推進し授業改善にもつなげていく。

また、特に本校が力を入れている国際理解教育の推進のために英語4技能の育成を図るために分掌組織に「英語教育研究会」を立ち上げ、大阪教育大学の教授を招き研修に努める。今年度新たに専門学科である「国際科」を立ち上げ、ブリティッシュコロニア州の海外校を設置したダブルディプロマコースと普通科で実施していた1年留学コースを設置し、さらなる「英語教育」「国際理解教育」を実践し、真の「国際化」を目指す。

「国際科」にとどまらず、「普通科」でもネイティブ教員による英会話授業について少人数対応を実施し、4技能の育成をする。

看護コースについては、4年制大学進学をするメリットが周知できてきている。大学進学実績についても結果が出てきているが、更に生徒・保護者のニーズに応えられるよう大学進学実績を向上させていく。

以上のように進路指導の基盤となる教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年2回)(2021年度については新型コロナウイルス感染症の影響により年1回の実施)と教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善の視点を知らせる。例年は7月の調査で改善すべき点を示された多くの先生が2学期に改善を図る。

ア、教育のデジタル化に対応し「電子黒板」「i-pad」「Surface Go」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」「駿台サテネット」等の利用促進を行い授業改善に努める。

イ、グローバル化に対応した教育活動を展開するため英語教育の改善と国際理解教育の推進をさらに図っていく。

ウ、教員に対する生徒の授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ授業方法の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高める。

エ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験の機会を増やす。

オ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させる。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

「少子高齢化社会」「国際化」「外国人労働力の流入」「AIの進化」などの社会情勢の中、生徒たちは、自立・自律の精神とともに社会の中で自己を活かす精神と実力をもった大人として成長していかなければならない。生きていく社会の中で「自分は何ができるのか」「どう行動するのか」を考える視点を持たなければならない。本校がすべてのコースでクラブ活動を認めているのも教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等を通してこれらの資質向上を図れると考えているからである。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていく。

ア、ボランティア活動(大阪マラソンへのボランティア参加等)やセレッソとのオフィシャルパートナー契約、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。今年度より国際ボランティアの取り組みとして公益財団法人大阪国際交流センターと提携し、留学生のイベント等にボランティアとして参加をする。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成する。

ウ、体育祭や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見を分かるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成する。

(2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で文化祭は中止、体育祭も全校での実施は中止とし、3学年のみの体育祭とした。)

エ、日々の授業に対する姿勢こそが「集中力を養う最適の手段」であり、学習とクラブ活動・奉仕活動・学校行事への取組等を両立する中でこそ「生活体験に基づいた生きた知識(智慧)を育成できる」という観点で教育活動を進める。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

「校区という地域」を持たない私立高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。子どもが勉強や各種行事で活動する姿が見えるように情報発信の質を高めていくことが大切だと考える。その基盤となるのは子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を家に帰ってきた子どもから保護者が感じることができるようにならなければならない。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせない。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていく。

このために保護者対象のアンケートを行い、本校の教育活動の振り返りと改善点を明確にする。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていく。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深める。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていく。(2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部縮小。)

(2) 危機管理体制の確立

異常気象の表れと思われる局地的豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を地域社会とも連携し構築していくことが求められている。特に大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していく。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整える。

また、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命と認識し、事故防止にも努める。万一の災害・事故に備えた保険についての知識を高め教職員賠償保険や第三者賠償保険等にも加入して教職員・生徒の保障に努める。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉

1 基本的な生活習慣の確立

保護者アンケート「生活指導は充実していて規範意識と自律性の育成に十分な効果をあげているか」という質問は74%の肯定回答と高い数値になっている。この数字と比例して「この学校に入学させて良かった」という肯定回答も77%の数値となって現れている。保護者が子どもに獲得させたい資質も1位が「学力・知力」で2位が「自主自立の姿勢」となっている。また、「本校の特色は何か」という質問で「子どもたちがいきいきと学習や部活に取り組んでいる」「クラブ活動と学習の両立」への評価が高い。保護者の大半が子どもの学力向上・進路保障だけでなく本校の教育目標の「社会に貢献できる青年の育成」に賛同していることが分かる。

この目標達成のために「遅刻」「服装」等のルールの遵守を指導目標としてきたが、目標数値には達していない。今後も遅刻指導については、高校生ともなれば自分で時間管理が出来なければならず、親に頼ってはだめだということを機会あるごとに該当生徒やクラス指導で訴え、「遅刻は他人の時間を奪う行為」という意識の定着を図って行く。自主自立の姿勢を確立し、時間の使い方を学ばせるために「学芸手帳」の利用をさらに進めていく。又、挨拶については言われてするのではなく意味の理解をするための話を生徒達にした上で実践するように促している。昨年に比べ、新型コロナウイルス感染症の影響で学年集会等の機会が減り、全体での話がなか

【学校協議会からの意見】

1 基本的な生活習慣の確立

○ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の急速な拡大のため、年度の最初から休校を余儀なくされました。休校期間中(3月～5月)、生徒は自宅での「オンライン学習」を続けました。「家庭」➡「学校」➡「家庭」という従来の生活パターンが急に変わり、新しい生活リズムに慣れるのに大変だったと思います。保護者もまた、大変なご苦労があったと思います。「学校に遅刻しないように起床する」、「服装・身だしなみを整える」、「挨拶をする」といった規則正しい生活習慣・礼儀の励行は、学校に登校することなく家で一日の大半を過ごす生活では、ともすれば疎かになりがちだったのではないのでしょうか。生徒の基本的な生活習慣を崩さぬよう、オンライン学習は学校の時程に合わせて、朝は担任による出席確認から始まり、授業後もやはり担任がHRを実施したとのこと。オンライン画面でも、学校に居る時と同じではないにせよ友達や先生と繋がりは保てます。しかし実際は自分の部屋に居る。こういう二元的でバーチャルな状況を生徒はどのように感じ、受け入れたのでしょうか?果たして高校生にとって、「在宅学習」はどのような環境であったのか?休校期間中の生活状況、学習状況に関するアンケート等のデータがあれば、ご紹介戴けたらと思います。

○ コロナウィルスの感染拡大は、あらゆる生活局面で「対面」型のコミュニケーション手段を抑制し、「オンライン」型のコミュニケーション手段を一気に

なか出来ない状況であるが、挨拶をする生徒が増えている。今後も推進していく。

いじめ行為は、保護者アンケート「いじめがなく安心して登校できる」との肯定回答が 88%と高い数値となっている。油断することなく早期発見を目指して5月と11月にアンケート調査・教育相談を行い、クラブにおいても練習終了後、着替えた後のミーティングで生徒の様子を観察するように教職員を指導している。いじめアンケート調査では、無記名アンケート実施後、記名アンケートを実施し早期発見とともに「いじめは許されない行為」という学校の姿勢を生徒達にも持たせていく指導の場としても取り組む。さらに、生活指導の事例を職員朝礼時に話し、日々注意喚起を教職員にすることで教員の生活指導力の向上にも努めてきた。

特に今の子どもたちは大人が想像する以上のストレスをためており、小さいいじめが引き金となって自死するに至ることを考え子どもの言動に注意を払うように啓発していく。

一方、学校現場を悩ませている SNS については「ソーシャル・メディア・ポリシーの確立」に向けて今年度も方針を明確にし、SNS による嫌がらせ行為減少に努めてきた。しかし、全くなくなるということはなく、継続的にクラス、学年集会、全校集会で訴えていく必要がある。

2 学力向上と進路実現

「子どものやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいる」という評価についても肯定回答が 68%と高い評価になっている。「どのような進路の実現を望んでいるか」(複数回答可)の回答の「国公立文系」19%「国公立理系」17%「4年制私立大学文系」58%「4年制私立大学理系」28%となっており、圧倒的に4年制の大学進学希望が多くなっている。内訳も例年と大きく変わっておらず、これは本校の進学実績が良好であることも要因であると考えられる。

また「進路指導が充実していて生徒の進路指導の発見・実現に十分寄与している」という肯定回答が70%となっている。昨年度まで数年70%を切る数値で推移していた。進路指導部を中心に取り組んだ結果、70%台にすることが出来た。これは、3月～5月末までの新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により臨時休業期間があり、その間、オンライン授業や「スタディサプリ」の利用。更には3年生全員が「駿台サテネット」を利用できるように改善したことも進路指導の充実につながっていると考えられる。学力向上は、日々の授業がこの鍵となる。学力向上に大きく寄与する「先生の好感度」については、改善すべき点を意識していくことで向上していくが、学力向上実感(この授業を受けて学力があがったと実感できるか)とリンクしていない教員も見られた。「学力向上実感」が低い割に「好感度」の高い教員はいるが、「好感度」の低い教員で「学力向上実感」が高い教員はいない。全てがリンクするわけではないが、「好感度」を意識することは大切な要素である。現場の教員が、服装・身だしなみ・言葉遣いを意識できるような取り組みを考える必要がある。

ハード面では、すべての教室に電子黒板が設置され、全員がタブレットを持つようにした。それらを使用して活用できるようにスタディサプリ、スタディサプリ English を導入し、自学自習を促し学力向上を図っている。

今年度の新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間から積極的にオンライン授業や双方向授業を実施したことにより、タブレットを全員持っていたことやWi-Fi環境を整えていたことで有効活用することが出来た。

また、進路指導については、昨年、進学実績を大きく伸ばすことが出来た国公立大学、関関同立についても昨年並みの進学実績が出せた。また、産近甲龍についても昨年同様、近畿大学で多くの合格者を出すことが出来た。次年度にも引き継いでいく必要がある。ただ、指定校推薦や公募推薦で早く進路決定をしたいという生徒・保護者も多く、如何に自分の目指す進路獲得に向けて頑張らせていくかが大きな課題である。「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者にも十分提供されている」という保護者アンケートの肯定回答も66%から71%に伸びているが、さらに伸ばしていく必要がある。

3 社会に貢献できる資質の育成

本校は、すべてのコースで「勉強とクラブ活動の両立」を奨励している。

加速させました。しかしSNSに代表される「対面」を必要としないコミュニケーション手段は、ともすれば表面的・一方的になりがちです。そのことが原因となって、人間関係の誤解を招いてしまうこともあります。生徒達は「オンライン」の利便性を享受しながらも、「基本的生活習慣」を始めとする、社会生活の基盤となる「ルール」や「道徳」を大切にしたいと思えます。

○「いじめ行為」、「SNSによる嫌がらせ行為」の危険性や問題点は、重要な生徒指導上のテーマです。「自己診断」では、保護者アンケートの肯定回答(88%)に油断することなく、5月と11月に実施するアンケート調査・教育相談、クラブ活動後のミーティング時の生徒の様子を観察等、いじめの事実や兆候を早期に発見するため、きめ細かい対策を講じていると評価できます。「SNSによる嫌がらせ行為」については、学年集会、全校集会で繰り返し訴えて行く必要性について言及されています。ソーシャル・メディアに対する生徒の意識を如何に高めて行くか？ SNSが持つ「利便性」と表裏一体の「危険性」について、具体的な事例に基づき、生徒に学んで貰う機会を出来るだけ多く設けて戴きたいと思えます。

○ SNSによる「嫌がらせ行為」でなくとも(本人に自覚や悪気がなくても)、例えば、安易なネットへの画像や動画の投稿が「他者のプライバシーを侵害する」、「他者の権利を侵害する」、また逆に「自分のプライバシーが暴露・侵害される」、「投稿を見た人達から攻撃を受ける」等の事例も多くなっています。高校生や中学生は、法的な知識や社会的相当性に関する判断能力も十分に備わっていません。「面白そうだから」とか「別に問題ないと思った」という程度の理由で行なった投稿によって、自分自身がいとも簡単に「加害者」にも「被害者」にもなり得る「危険性」、「怖さ」について、継続的に指導を行なって頂けたらと思えます。具体的・実践的に学ぶという観点から、この分野の実務を担っている専門家の講演、研修会等を実施するもの効果的ではないかと思えます。

2 学力向上と進路実現

○ アンケートで「進路指導が充実していて生徒の進路指導の発見・実現に十分寄与している」という肯定回答が70%となっていることは大変評価できます。この指標が昨年度まで数年、70%を切っていたということですから、大阪学芸の進路指導は年々充実して来ていると思えます。生徒は他校に通っている友達の話も日常的に聞くことがあるでしょう。「自分の学校の進路指導はこうなっている」という、いわゆる口コミ情報を通じて他校と本校の進路指導体制の違いを実感するのではないのでしょうか。「スタディサプリ」や3年生全員の「駿台サテネット」利用、先生方による「講習」等、「学力向上」・「進路実現」を図るために本校が実施しているプログラムは多彩であり、非常に充実していると思えます。「スタディサプリ」や「駿台サテネット」は受講費用を比較的安価に抑えた上で、しかも夜9時まで「管理自習室」を開放しているため、生徒は落ち着いた学習環境で勉強に集中することが出来ます。このように、「ソフト面」・「ハード面」の両面で学校挙げて教育環境の充実を図っていることがよく分かります。

○ 「ハード面」で特筆すべき点は、ICT環境の充実です。すべての教室に電子黒板が設置され、生徒全員がタブレット型端末を持っているという環境は大変優れていると評価できます。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休業校下において、在宅学習の実効性をどのように担保するのが、全国的な課題となりました。日頃よりICT機器を実践的に活用している学校と、そうでない学校では、当然ですが学習環境に大きな差が出ると、新聞報道等でなされてきました。その点、大阪学芸は何年も前からICT環境の充実に力を注いできたことが、結果的にコロナ休校中の学習機会の確保に繋がったと評価します。

○ 大学進学に関しても昨年並みの進学実績が出せたということですので、次年度に向けて一層頑張らせて戴きたいと思えます。「指定校推薦」・「公募推薦」といった多様な入試制度が存在する中で、「一般入試」まで受験勉強を続けて、目指す進路を獲得するためには、強い意志が必要です。「自己診断結果」にも述べられているように、如何に自分の目指す進路獲得に向けて頑張らせて行くかについて、検討のほど宜しくお願い致します。

3 社会に貢献できる資質の育成

これはクラブ活動を通して先輩と後輩の在り方、未熟な生徒にどのように教えれば向上するのか、そのためには自分はどうな背中を後輩に見せればよいのか等を経験する中で真の奉仕の精神が生まれるものと確信している。今年は大阪マラソンも中止となり、ボランティアの機会が減ってしまっている。しかし、セレッソ大阪とのパートナーシップ提携によるホームゲームボランティアについても出来るだけ参加をした。また、回数は少ないものの公益財団法人大阪国際交流センターと提携し、国際ボランティアの機会を持つことも出来、子どもたちの心に「奉仕の精神」を醸成できたと考える。行事については、新型コロナウイルス感染症の影響で文化祭・体育祭が中止となったが、高校3年生の体育祭を実施。高校2年生についてはスポーツ大会を実施した。

4 保護者への情報提供

保護者アンケート「学校のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の肯定回答は77%となっている。また、保護者から見て「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」というアンケートは89%の肯定回答を得ている。私学は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなる。これらが「知り合いや親せきにこの学校を進めたい」という肯定回答に77%の数値となって現れている。

また「懇談会は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定回答が87%となっている。以上から保護者との連携はまだ課題はあるとしても順調に推移していると考えている。

5 危機管理体制の確立

本校は大和川以南からの通学者が多く、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難となる生徒が3分の1を超える。このため、4月より各自に教室保管用の避難物資を購入し、その対応を図ることが出来た。この取り組みは今後も進めていきたい。

○ 大阪学芸の建学の精神である「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」を実現するための具体的な教育目標として、高等学校が「勉強とクラブ活動の両立」を掲げていることは、大変良いことだと評価します。クラブ活動は、同じ目標を持つ仲間との「共助意識」、厳しい練習に耐え地道な努力を続ける「忍耐力・継続力」、上級生になると下級生の指導やクラブ運営に率先して当たる「リーダーシップの意識」、勉強とクラブ活動のバランスを図る「自己管理の能力」など、将来、社会に出た際に必要とされる資質を磨くことが出来ます。また、ボランティア活動に力を入れているのも、大変良いことだと思います。自分のことしか考えない「利己主義」ではなく、他者や周囲に対する思いやり、奉仕の精神等を育む素晴らしい取り組みだと評価します。

○ 「自己診断結果」では本校とパートナー提携をしている「セレッソ大阪」のホームゲーム・ボランティアや、公益財団法人 大阪国際交流センターと提携しての国際ボランティアの活動等を実施したと書かれています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、大会・イベント等が全国的に中止・延期となりました。そのような社会状況の中、少ない機会であっても積極的に活動に参加したことは高く評価できます。現在でも状況は大きく変わっていませんが、「コロナ禍」での大会・イベント実施にあたっては、様々な制約が設けられました。人数制限や入退場動線の工夫、アルコール消毒、密集防止策等々。生徒達はボランティア活動を通じて、「コロナ以前」と様変わりした運営形態に戸惑いを覚えたかも知れませんが、一方で、「社会」や「公共」のあり方は時どきの状況によって変わるという事実を知り、厳しい制約の元でも、社会活動を成り立たせるために、いかに多くの努力が払われているのかを学ぶ機会になったのではないかと思います。

4 保護者への情報提供

○ 保護者アンケートの「大阪学芸のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の肯定回答が77%、「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」の肯定回答が89%、「懇談会は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」の肯定回答が87%と、いずれも良い数値結果が出ていることについては、高く評価したいと思います。

○ 大阪学芸のホームページ画面は大変見易いレイアウト構成がなされていると思います。高等学校、附属中学校はそれぞれのカラーイメージで区分けされており、すっきりまとまった印象を受けます。そして閲覧者がメニューに従って、迷うことなく見たい箇所・目的のページに到達できる工夫が凝らされています。ホームページは大阪学芸高等学校の教育活動を余すことなく紹介し、学校の対外的イメージ、評価にも大きな影響を与える重要なツールです。主観的な意見になりますが、大阪学芸のホームページは明るく、快活で開放的な印象を受けます。高等学校の快活で伸びやかな校風とも、よくマッチしていると感じます。

○ ホームページ以外にも、カラー刷りで見易い「学芸新聞」の発行、オンラインの配信ツールである「さくら連絡網」など、目的に応じた様々な情報提供の媒体が用意されています。「自己診断結果」にも書かれているとおり、『私学は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が、保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なもの』です。これは本当にその通りだと思います。生徒・教員・保護者の三者間の意思疎通を円滑にすることは、教育目標を達成して行く上で不可欠の要素だと考えます。今後とも一層、学校の情報発信力を高めて欲しいと願っています。

5 危機管理体制の確立

○ ここ数年、自然災害の頻度、規模が拡大しています。4年前の大阪府北部地震の発生時、校内には数百名の生徒が居たと聞いています。鉄道再開・安全確認後に生徒達を帰宅させるため、急遽、大型バスを複数台手配して通学地域・方面ごとに乗車させ、同じ方面から通勤される教職員の方も同乗して、最寄り駅まで送り届ける措置を取られたとのこと。保護者にとっては大変心強い対応であったと評価できます。

○ 上記のような事態は、今後も起こり得ます。自然災害については、生徒がすでに学校内に居る場合と、通学途上の時間帯の場合とでは、当然学校の対応も

	<p>変わってくることでしょう。保護者からすると、生徒は家を出たものの、学校に到着していない時間帯に起こる災害は、学校の管理下でない状況にあり、安否・動静の確認に手間取るなどして不安が高まると思います。非常災害時は携帯電話も繋がりにくいケースがよくあるので、「LINE」や「さくら連絡網」等をうまく活用することで、生徒・教職員ともに、状況に合わせた臨機応変な対応が取れるようにして戴けたらと思います。</p> <p>○ 全般的には「中期目標」に書かれているとおり、「避難訓練」、「避難物資等の準備態勢」、「保護者との連絡体制」を整えるとともに、自然災害に留まらず、生徒の生命・安全に関わる危機・危険については、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命であると認識して戴き、事故防止にも努めて戴くようにお願いします。</p> <p>○ コロナ禍の社会状況は現在も続いています。令和2年度の「臨時休校」のような状況は、二度と起こって欲しくないと思うところですが、自然災害同様、「いつ、何が起こるか」については誰も予測は出来ません。その意味では、万一の場合でも大阪学芸の教育力を落とすことなく、機敏に対応できる体制を構築することも、まさに「危機管理」ではないかと考えます。現場の先生方には大変なご苦労もあると思いますが、ぜひ宜しくお願いします。</p> <p>○ ホームページには、新型コロナウイルスの感染防止対策が紹介されています。「サーモグラフィー」、「ウィルス除去フィルター」、「抗菌マット」、「クリーンゲート」など、様々な策が講じられています。学校挙げてコロナウィルスの感染拡大防止に努めていることは高く評価したいと思います。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的な生活習慣の確立	1 規律ある学校生活の確立 (1) 規範意識と自立性の育成 (2) 学級集団の育成 (3) 教職員の学級経営・生徒対応能力の向上	<p>私学の最大の教育目標は生徒の「学力保障」にある。その基盤となる「落ち着いた学習環境」と言える。</p> <p>クラス・学年の秩序は真面目な生徒たちによって支えられているという認識のもとに校則をきっちり守り、気づく心を持って困っている人たちに声を掛けることのできる生徒を育成する。</p> <p>(1) 風紀週間・下校指導・服装違反等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図る。</p> <p>○指導カードの発行による啓発</p> <p>(2) 「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念する。</p> <p>○いじめ対策委員会の実施</p> <p>(3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行う。</p> <p>また、生徒の人間関係を深めクラスと言う仲間育成の場で担任のきめ細やかなリードのもとに子どもたちの良さを引き出すことのできる担任力を育成する。</p>	<p>(1) 現在の学校生活について「規則正しい生活を送れる」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(2) 学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(3) 学級経営において</p> <p>①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれるし、感情的にならず生徒が理解できるように配慮してくれる」指数を 50 以上とする。</p> <p>②「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切に作る風土がある」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(4) 「良い友人が多い」という指数を 60 以上とする。</p> <p>(5) 担任は「クラス生徒全員と話す機会を持つ」という指数を 40 以上とする。</p> <p>(6) 担任は「ホームルーム活動が充実して行えるように工夫してくれる」という指数を 50 以上とする。</p> <p>(7) 「クラス全体で取り組む活動を通して一体感が持てるようにしてあげる」という指数を 45</p>	<p>(1) 1年 60、2年 44、3年 43、全体で 49 となっている。各学年ともに目標には達していないが昨年と比較し大きく改善された。コロナ禍ではあるが制限のある生活の中で自己管理を良くしてくれた。「学芸手帳」を利用したスケジュール管理など保護者との連携を密にして指導を継続していく。</p> <p>(2) 1年 71、2年 65、3年 61、全体で 65 と高い指数になっている。</p> <p>数値が大きく改善されている。より高い質の意識向上を図るために「いじめアンケート」の実施と全体指導をしていく。</p> <p>(3) ①1年 54、2年 40、3年 36、全体で 43 となり 60 指数には至っていない。昨年大きく改善されたが、今年度は少し悪くなっている。学年が上がるに従って数値が悪くなっていることと共に改善の必要がある。</p> <p>②1年 50、2年 37、3年 32、全体で 39 となっている。昨年に比べ若干の改善は見られるが学年を追って数値が悪くなっている点など改善が必要である。</p> <p>(4) 良い友人が多いという評価では満足度指数が 1年 75、2年 76、3年 73、全体で 75 となっており、昨年よりさらに 5 指数高い数値を示している。</p> <p>(5) 1年 50、2年 45、3年 38、全体で 44 と高い数値を示している。</p> <p>(6) 1年 39、2年 41、3年 28、となっておりまだまだ数値を高める必要がある。</p> <p>(7) 1年 6、2年 20、3年 54、全体で 26 となっている。コロナ禍で行事が全て中止になったことで昨年に比べ 1年で 40 指数、2年で 7 指数さがっている。3年は微増であったが全体でも 15 指数悪くなっている。</p>

			以上とする。	
2 学力向上と進路実現	2 学力向上と進路実現に向けた取り組み (1) 生徒による授業満足度の向上 ○ 授業アンケート ○ 教育のデジタル化 電子黒板とタブレット利用の促進 ○ 英語教育の改善 (2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。 ○ スタディ・サプリ・駿台サテネット・管理自習室の利用促進 ○ GTEC・英検・漢検等資格試験受験の促進 (3) 希望進路の発見と実現に寄与する。 ○ 国際理解教育の促進 ○ 多様な講習の充実	高校は「4年制私立大学への進学」を望む保護者の願いに応えることと言える。このため教師の授業力向上は本校教育の根幹をなすと認識している。 また、成熟した民主主義社会は「選択と自己責任」の社会と言える以上複雑化する大学入試の情報提供は欠かすことができません。 授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。この保護者の信託に応えるために次のような取組を行う。 (1) 授業力の向上をめざし、例年は7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させ、2回目の授業評価で数値改善をはかっている。4月から臨時休業となり、授業評価は10月の1回のみになったことで、数値には表れないが、10月以降の改善を実施した。 また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備する。 (2) デジタル教科書が急速に普及してくることに対応して全館整備が終了した電子黒板に加え、i-pad、Surface Go を利用し授業改善に取り組む。 コロナ禍でのオンライン授業、双方向学習を実施。(Google Classroom、ロイロノート、Zoom等の活用) (3) 英語改革に対応し英語教育研究会を立ち上げ本校の英語教育について見直し改善を図る。 (4) スタディ・サプリ、スタディ・サプリ・イングリッシュを導入し生徒の学習環境を整え自学自習を推進する。コロナ禍の臨時休業に際し、昨年は3年生は希望登録であったが全員登録をしてもらった。 (5) 駿台サテネットの利用や管理自習室を通して自学自習の力をつける。コロナ禍の臨時休業に際し、3年生全員が無料で利用できるようにした。 (6) GTEC・英検・漢検等の資格取得者を増やしていく。 (7) 生徒のニーズの高い1年留学制度をさらに整備・充実する。	(1) 相互授業参観を実施する。 授業アンケートを実施し次の項目のプラス指数を向上させる。 (2) 教員の「好感度指数」を60以上とする。 (3) 「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を60以上とする。 (4) クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を60以上とする。 (5) 「さまざまな進路希望に対応できるように教育課程は適切に整備されている」という保護者アンケートの肯定的意見を60以上とする。 (6) 「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を40以上とする。 (7) 「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を60以上とする。 (8) 「全科目にわたり学習指導は充実しており学力向上に十分成果をあげている」という指数を60以上とする。 (9) 英検準2級以上の資格保持者25%以上とする。 (10) スタディーサプリの初期設定ログイン95%を目指す。 (11) 英語教育改善の方策を打ち出します。 また、1年留学制度の整備充実を図る。	(1) 教育は指導者の力によるところが大きい。このため、指導力のある教員が新任教員を指導する体制の確立が急がれる。「授業参観レポート」を作成し相互授業参観を昨年度に続き実施したが、普段の授業で互いにコミュニケーションをとって点検しあい高め合うまでには至っていない。また、教科会で指導案等の点検・意見交換等もはかられていない。 (2) 教員の生徒からの好感度と学力は比例するものである。平均好感度は全国水準の68指数に対して本校は70指数となっている。 (3) 学力向上実感は46指数(昨年度47一昨年度39)となっている。1年39、2年47、3年52となっている。2年生で良くなっているが1・3年で改善の必要がある。 (4) 指数としては1年30、2年26、3年17、全体で24となっており、昨年に比べ10、一昨年に比べ20改善された。しかし、授業中の集中は基本であるので更に改善へ向けて取り組みが必要である。 (5) 高校の保護者の81%は肯定している。高い水準となっており、昨年と比較しても4%伸びている。 (6) 肯定的意見に回答してくれた保護者は71指数(昨年66)となっている。否定回答が21(昨年25)となっており、改善が見られる。コロナ禍で説明会が難しく、オンラインによる説明等進路指導部を中心に新たな取り組みをした成果があった。今後も進路説明や個人懇談などをきめ細かく実施する必要がある。 (7) 生徒からは-2(昨年-20)という結果であり改善はされているが、更に改革の必要がある。講習にスタディサプリを利用したり、英検対策をしたり改善をしている。やらされる講習ではなく自ら考えて自学をする必要がある。 (8) 保護者アンケートを分析すると肯定回答は64(昨年62)であるが、否定回答も21(昨年26)となっている。更に否定回答を出来るだけ減らしていく必要がある。 (9) 英検準2級以上の合格者の学校申込者は全体で19.3%(2023人中391人)となっている。中学の時に取得している者や個人申込者・外部受検者を合わせると増加すると考えられるが、それでも目標には達していないと考えられる。全体の把握と受験者数を増加させる必要がある。 (10) 本校の教育の柱となる「自学自習」を進めるためのスタディサプリのログイン数は100%となっており当初の目標は達成されている。 (11) 現在、高校では、大阪教育大学の教授を今年度も招き研修会を行っている途上にある。1年留学について2年生は予定通り出発をしたが、コロナ禍でオンライン授業やロックダウンの影響を受けた。生徒達はよく頑張って留学を最後までやり遂げた。さらに、1年生は予定通りの出発が出来ずに延期となった。
	3 社会性の育成 (1) 助け合う雰囲気あふれる	学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活	(1) ①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感	① 1年6(昨年46)、2年20(昨年27)、3年54(昨年50)、全体で26(昨年41)指数という結果が出

	<p>クラスづくり</p> <p>(2)部活動の活性化</p> <p>(3)ボランティア活動の充実</p> <p>(4)学校行事の充実</p>	<p>動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命である。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにある。</p> <p>(1)クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進める。</p> <p>(2)クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図る。</p> <p>(3)ボランティア活動の充実 クリーンキャンペーンとして地域清掃を行い、ボランティアサークルの活動として大阪マラソンボランティア活動(中止)への参加やセレッソ大阪ホームゲームボランティアを進めます。 国際ボランティアにも新たに取り組みを始めます。</p> <p>(4)生徒の自主性を育てる学校行事を促進する。</p>	<p>や一体感があると感じることが多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を60以上とする。</p> <p>(2)「学校生活(学習面・部活動など)についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を60以上とする。</p> <p>(3)「学校行事が充実するとともに様々な工夫の跡が見られ、教育的な配慮が強く感じられる」という保護者アンケートの指数を60以上とする。</p>	<p>た。大きな成功体験を得ることの出来る文化祭が中止となり、1・2年の体育祭も中止となった。体育祭を実施した3年は昨年と変わらない数値であるが、1・2年は大きな影響を受けた。</p> <p>②1年42、2年29、3年29、全体で33となっている。いずれもB評価止まりになっている点を考えると生徒たちへの心の教育の必要性を感じる。しかし、個々の生徒は親切心があるが、集団となるとなかなか手助けしにくいという面もあるのでこれをもって道徳心がないとは言えない。</p> <p>(2)1年20(昨年29)、2年25(昨年23)、3年51(昨年44)というように1・2年では中々明確な目標が持っていない生徒が多い。特に1年生では昨年より数値が低く、コロナ禍で明確な目標が得られない傾向が強い。3年で目標が上がっているのは、ほぼ進学目標となっていることから早期の進路ガイダンスを進めていく必要がある。しかし、数値は低く出ているが、目標保持の肯定回答は1年で60%、2年で62%となっており決して低い数値ではないことも分かる。</p> <p>(3)保護者アンケート結果が肯定回答70(昨年76)に対して否定回答が19(昨年17)となっている。年々、子どもたちの質は良くなり、何事にも熱心に取り組む生徒が着実に増えてきている。ただ、生徒数に比較して学校施設が手狭なために十分な活動ができない面も否めない。また、コロナ禍で行事が出来ず、保護者の参加も全くできなかった影響が大きい。</p>
<p>3 信頼される学校づくり</p>	<p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1)保護者と信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページの充実 ○ 学芸新聞の発行 ○ 進路だよりの発行 <p>(2)進路情報の発信</p> <p>(3)防災教育への取り組み</p>	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識している。</p> <p>(1)担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活動を進める。</p> <p>(2)ホームページの充実 ニュース、トピックスにて更新内容を周知する。</p> <p>(3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行う。</p> <p>(4)保護者が学校行事に来やすい環境を作る。</p> <p>(5)学芸新聞の発行</p> <p>(6)防災教育の充実 ○避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行う。 電車通学している生徒も多く、災害発生時に帰宅困難となることも想定し防災グッズを常備す</p>	<p>(1)授業参観や懇談会は適切な頻度で行われていて学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定意見を60以上とする。</p> <p>(2)①「入学前と入学後の学校のイメージは良くなった。」②「あなたは知人や、将来的に自分の子どもにこの学校を紹介しようと思うか」という数値を40以上とする。</p> <p>(3)「この学校に入学させて良かった。知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい」という保護者アンケートの数値を50以上とする。</p> <p>(4)「担任は相談しやすく、誠実に対応してくれる」という保護者アンケートの肯定回答を80%以上とする</p> <p>(5)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を45以上とする。</p> <p>(6)学校からの情報発信源となるホームページの関</p>	<p>(1)87%の肯定意見があった。否定的見解も8にとどまり改善が見られる。</p> <p>(2)①1年67、2年54、3年58となっている。逆にイメージが悪くなったと答えたものが1年33、2年45、3年42となっている。昨年より改善しているが更なる改善が必要②についても「紹介したい」が1年80(昨年75)、2年71(昨年53)、3年64(昨年59)で全体でも71(昨年62)と大幅に改善された。A回答-B回答でも43指数と目標を達成した。原因としては、コロナ禍のオンライン授業の対応やICT教育の取り組みに対し他校との差を感じ取ってもらった結果と思われる。</p> <p>(3)全体の77%(昨年73)の保護者が肯定的な回答を出してくれた。この項目は学校に対するロイヤリティになる。数値を出来るだけ高めることが保護者・生徒の満足度に直結する数字なので分析を進めていきたい。</p> <p>(4)肯定回答は89、しかし6%の否定回答もあった。特に電話対応のきめ細かさが大切であり、家庭訪問のない私立学校では4月当初、懇談までに各家庭に担任から挨拶の電話を入れるように取組をさらに進めたい。</p> <p>(5)肯定-否定の数値が全体として37指数(昨年17)となった。昨年からは大きく改善が見られたが目標には届いていない。本校の特色は丁寧できめ細やかな対応にあると考えている。今後もこの方針を曲げないように教職員に啓発を続けて行くことが大切。</p> <p>(6)学校のホームページが充実していると考えている保護者は77%と高い評価となっている。ホーム</p>

		る。	<p>覧数を 130, 000 回/月以上とする。</p> <p>(7)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実。</p> <p>(8)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を引き続き行う。</p>	<p>ページの閲覧者数が 159, 527 回となり目標を大きく上回った。</p> <p>(7)進路部長による講話や進路だよりを通して保護者への啓発が十分にできた。また、予備校等の関係者からの大学入試の現状についての説明会も定着してきている。コロナ禍で進路説明会をオンラインで行うなど工夫も見られた。</p> <p>(8)昨年度に続き災害避難物資もすべての生徒に配布し教室保管することができている。教室に配置された備蓄物資にいたずらをする生徒もなく卒業まで保管されている。この物資を使わなくても良い日々が続くことを祈りつつ。</p>
	特記事項	<p>1 ICT 教育・オンライン授業の工夫などコロナ禍での学習環境を整えることが出来た。</p> <p>2 学校危機管理マニュアルを作成して生徒の安全生活に対する教職員の意識の向上を図った。</p>		